

社屋移転は「第二の開局」 自己革新ができるチャンスであり エリアの活性化にも貢献したい

二〇一六年十一月にささしまライブ24への社屋移転を行う中京テレビ。既に社屋自体は完成し、これから約一年をかけて移転を行う。移転で何が変わるのかを山本孝義社長に伺った。

——ささしまライブ24に新社屋が竣工し、十二月七日には竣工式が行われました。

山本 東日本大震災のような災害発生も想定し、名古屋の局としては初めて免震構造の建物となりました。あらゆる厳しい自然災害にもびくともせずに放送を続けられるような堅牢な建物です。災害発生直後からも最低七日間、継続して確実に放送が継続できるように、燃料タンクを備え、発電施設も上の方の階に設けています。

建物の竣工式はしましたが、まだ中は空っぽの状態です。一年かけて二〇一六年十一月をめどに移転作業を終了し放送を開始する見込みです。現在の放送機材はコンピュータの塊のようなものから、動作チェックも含めて慎重に行っていくかねばなりません。確実に放送を続けていくためにも、それだけ時間をかけて移転を行っていきます。

——中京テレビは、災害時も含めて、ささしまライブとどのような

に関わり、どのような位置づけになつていくのでしょうか

山本 大規模な災害時には、社屋と愛知大学の校舎の間にある公園施設が、帰宅困難者の緊急避難場所になります。そのため公園側に向けて大型ビジョンを社屋壁面に設置し、帰宅困難者に情報を流すようになっていきます。

愛知大学とのコラボレーションのプランはいろいろあると考えています。現在、愛知大学に対して寄附講座を行っており、当社の社員が定期的に講師をさせていただいていま

す。移転が完了すれば、もっと良い形で展開していけるでしょう。さまざまなコラボレーションもできると思います。

新社屋一階には移動式の座席二四〇席が入り、フラットなホールとしても使える多目的スペース「プラザC」を作りました。社内



新社屋外観北東パース